

# 安全

## 防災対策

**問** 自らの命は自らが守るという意識を持つなど、地域防災力の強化を目指した減災の気運の醸成と取り組みが必要ですが、見解を伺います。

**答** 県民一人ひとりが住宅の点検や非常食の備蓄に取り組みとともに、日頃から、自治会などの地域の連携やきずなを深めることが大事です。また、地域の実情を反映した初動時の体制と対応に関する計画の作成や訓練の実施も大変重要なことであると考えています。地域住民の皆さんが一堂に会し、様々な被害を想定したハザードマップや被災時の避難ルート、安否確認の方法を自ら検討、作成し、実際に訓練を行うことは、減災対策を進めていく上で極めて意義の深いものです。こうしたことから、自主防災組織の育成強化やリーダーの育成、災害図上訓練DIGの普及支援など、地域の防災力を高めるための取り組みを市町と連携協力しながら積極的に実施していきたいと考えています。



災害図上訓練DIG

# 教育

## 児童の安全確保

**問** 今日の悲惨な事件や事故を考えると、現状より一歩も二歩も踏み込んだ取り組みが必要ですが、児童生徒を守る決意と取り組みを伺います。

**答** 小学生が殺害される事件が連続して起こりましたが、子どもの安全を守るための取り組みを、今こそ、県民の皆さんと一緒に強化しなければならぬと決意しました。今回の一連の事件を契機として、「子どもの安全を確保しなければ」という関心が急激に高まっていますが、まずは、保護者、地域の皆さん、学校や警察署などが協働して、子どもに目を配り、子どもを見守る取り組みを強化することが大事であると考えています。併せて、子どもの安全確保に関するこれまでの県の施策や制度について、この機会に子どもの目線から見直し、点検することとしています。

**問** 来年度予算編成に当たり、本県の持続的発展に向けてどこに重点を置いて取り組んでいくのか伺います。

## 平成18年度予算

# 行政

**答** 現時点で平成18年度の財源不足額は520億円程度と、大きな財源不足が見込まれる危惧的な状況です。歳入、歳出の両面から様々な取り組みを強力に行い、収支改善をしていきたいと考えています。限られた行政資源を効果的・効率的に用いるためには、県と市町の役割分担を明確にして新たな協力関係を構築し、地域の多様な主体との協働を工夫して、地域の自立と協働の自治への転換を図っていくことが重要と考えています。また、一層の選択と集中を図り、県民の皆さんの安全・安心を確保するための施策や地域経済の活性化に欠かせない施策については、的確に対応していかなければなりません。本県の個性や優位性を高める中で、地域間競争に勝ち抜き、滋賀の活力を高めるため、様々な知恵を絞り、工夫を凝らして、県民の皆さんの負担にこたえられる新年度予算となるよう精一杯取り組んでいきます。

## 指定管理者制度

**問** この制度の成否は、指定管理者による運営をどのように監視し、評価し、指導するにかかっています。県民の意見にも耳を傾けるべきですが、対応と考え方について伺います。

**答** 今回の指定管理者の募集では、様々な創意工夫を凝らした提案がなされていますが、県民ニーズも踏まえつつ、それらの提案が現実の管理運営に生かされる必要があります。募集に当たっては、県民の皆さんの

声の的確に反映できるように利用者の意見の把握という点に留意したところであり、アンケート調査や意見箱の設置、さらには利用者や県を含めた運営協議会を設けるなどの取り組みをしてもらうこととしています。県としても、毎月または四半期毎の定期報告を求め、必要に応じて実地調査を行うなど、県民の皆さんの声を含めた管理運営の実態を正確に把握するとともに、必要な指示を行うこととし、より効果的な制度の運用に努めていきたいと考えています。また、指定管理者からの事業報告については、情報を幅広く共有する

## 行政改革

**問** 今後5年間の行政運営の基本方針となる「新しい行政改革大綱」を策定中とのことですが、改革の視点と具体的な取り組みのポイントを伺います。

**答** 改革の視点としては、「県行政のより一層のスリム化と効率化」、「市町村との新たな役割分担と協力関係の構築」、「地域の多様な主体との協働」、「選択と集中の徹底」の四つに、戦略的で一体的な組織運

営を目指した庁内におけるガバナンスと分権化の徹底、職員一人ひとりが健全な危機意識を共有するとともに改革への強い意思を持って自己革新に努めるという視点を加えたいと考えています。取り組みのポイントとしては、目標を超える収支改善効果を得られるよう最大限の努力をするとともに、すべての施策や事業について、人件費も含め聖域を設けることなく再検証し、実施が必要なものもアウトソーシングはできないかなど、抜本的な見直しを行う必要があると考えています。

# 12月定例会質問一覧

## 代表質問

世古 正 議員(自由民主党・湖翔クラブ)

- ▼平成18年度予算編成について
- ▼新しい行政改革大綱について
- ▼滋賀県国民保護計画について
- ▼野生生物との共生について
- ▼溺水対策について
- ▼県立病院改革と県立リハビリテーションセンターの設置について
- ▼新型インフルエンザ対策について
- ▼雇用問題について
- ▼農業 水産業の振興について
- ▼東海道新幹線新駅について
- ▼社会資本整備の考え方について
- ▼義務教育の構造改革について
- ▼警察署の統廃合について

## 西川 勝彦 議員(県民ネットワーク)

- ▼平成18年度予算編成について
- ▼滋賀県行政経営改革委員会の提言について
- ▼指定管理者制度の導入について
- ▼鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザについて
- ▼県立病院の改革について
- ▼滋賀県人会について
- ▼内なる国際交流について
- ▼建築確認申請書偽造問題について
- ▼交通事故について
- ▼治安対策について

## 一般質問

佐野 高典 議員(自由民主党・湖翔クラブ)

- ▼防災について
- ▼滋賀の環境について
- ▼(仮称)しがの農業 水産業中期プランの策定について
- ▼フレジャーポート係留保管の適正化について

沢田 享子 議員(県民ネットワーク)

- ▼東海道新幹線新駅について
- ▼障害者自立支援法制定を受けて
- ▼岡崎 基子 議員(県民ネットワーク)
- ▼財政危機と「選択と集中」について
- ▼児童を守る対策について
- ▼ピンクリボンとレッドリボンについて
- ▼若山 秀士 議員(自由民主党・湖翔クラブ)
- ▼交通政策について
- ▼環境県づくりについて
- ▼辻 貢 議員(自由民主党・湖翔クラブ)
- ▼携帯電話のメール機能による防犯・防災情報発信システムの導入について
- ▼大井 豊 議員(県民ネットワーク)
- ▼琵琶湖森林づくり県民税について
- ▼小杉 武志 議員(自由民主党・湖翔クラブ)
- ▼里親制度の充実と新たな展開について
- ▼福本庄三郎 議員(自由民主党・湖翔クラブ)
- ▼甲賀市上水道における断水事故について
- ▼滋賀県の総合交通体系について
- ▼公共工事の入札参加資格について
- ▼北野加代子 議員(県民ネットワーク)
- ▼「環境対策負担金」に関連して
- ▼アール・ティエンシンアリンク産業廃棄物処分場問題について
- ▼本県のこれからの労働力について
- ▼森 茂樹 議員(日本共産党滋賀県議会議員団)
- ▼日本国憲法について
- ▼日米合同演習について
- ▼アール・ティエンシンアリンクについて
- ▼議第251号指定管理者の指定につき議決を求めることについて
- ▼議第207号滋賀県フレジャーポートの係留保管の適正化に関する条例案について
- ▼河部 哲幸 議員(県民ネットワーク)
- ▼警察とメディアについて
- ▼高齢者虐待防止対策について
- ▼障害者支援と就労について
- ▼中小企業の現状と支援策について
- ▼青木 愛子 議員(県民ネットワーク)

上田 昌之 議員(自由民主党・湖翔クラブ)

- ▼2007年問題について
- ▼女性問題と少子化について
- ▼東海道新幹線新駅について
- ▼新卒就職者の定職について
- ▼早崎内湖の自然再生事業について
- ▼湖北地域の高齢者福祉と福祉施設の指定管理者制度導入の現状と今後について
- ▼桐山ヒサ子 議員(日本共産党滋賀県議会議員団)
- ▼東海道新幹線新駅問題について
- ▼障害者自立支援法について
- ▼米国産牛肉の輸入再開の動きについて
- ▼小寺 裕雄 議員(自由民主党・湖翔クラブ)
- ▼栄養教諭制度について
- ▼コミュニケーション・スクールについて
- ▼屋敷について
- ▼ラジオ体操について
- ▼梅村 正 議員(公明党)
- ▼東海道新幹線新駅について
- ▼減災対策の推進について
- ▼子どもを犯罪や事故から守る取り組みについて

中沢 啓子 議員(県民ネットワーク)

- ▼男女共同参画について
- ▼指定管理者制度について
- ▼琵琶湖と条例について
- ▼在宅医療の推進について
- ▼彦根城築城400年とまちづくりについて
- ▼谷 康彦 議員(県民ネットワーク)
- ▼リハビリテーションセンターについて
- ▼出原 逸三 議員(県民ネットワーク)
- ▼公共下水の汚泥処理について
- ▼障害者自立支援法施行に伴う市町への支援について
- ▼清水 克実 議員(自由民主党・湖翔クラブ)
- ▼年次改革要望書について
- ▼指定管理者制度について
- ▼警察とメディアについて
- ▼髙田 恵子 議員(自由民主党・湖翔クラブ)
- ▼県の防災に対する取り組みについて
- ▼「食育」に対する県の取り組みについて
- ▼人事委員会勧告について

## 用語解説

※3 「DIG」とは、参加者が地図を囲みながら、ゲーム感覚で災害時の対応策を考える災害図上訓練のことで、Disaster(災害)、Imagination(想像)、Game(ゲーム)の頭文字をとって名付けられました。地図に書き込むことによって地域の防災マップが出来上がり、日頃気づかなかった地域の防災対策が明らかになって参加者の防災意識が向上します。